

日本学術会議公開シンポジウム

「歴史認識と植民地責任」

《趣旨》

グローバル化が生み出す矛盾や格差拡大、国内外における分断・亀裂の深化、さらには COVID-19 蔓延を引き金とする社会的・経済的危機等を背景に、現在世界のどの地域・社会でも急激な変化が進行していますが、その際、たとえば「BLM (ブラックライブズ・マター)」運動や「ジェンダー問題」のような現代的な課題の背後に、実は複雑な歴史的背景が存在すること、危機を解決しより良い社会を築くためには正面から歴史と向き合うことが必要なことに多くの人が気づき始めています。

長らくアジア地域で懸案となってきた「歴史認識」問題もまさにこのような問題の一つであって、より広い世界史的な文脈に位置づけ、学術的知見を活かして、客観的に検討・議論すべき問題ではないでしょうか？

本シンポジウムでは戦争責任および近年提起されている「植民地責任」という概念を手がかりに、近現代のアジアと日本の歴史的経験を検証すると共に、「記憶」や、歴史認識・歴史意識の形成というテーマが持つ普遍性、グローバルな広がりに着目し、世界史的視野からの分析を試みます。多角的検討を通じて問題の理解を深め、未来への展望を探ります。

《日時・形式》

日時：2021年9月18日(土) 14:00~17:00

開催形式：オンライン形式 (ZOOM ウェビナー)

参加費無料・要事前申込み

参加希望者は氏名、所属機関等(任意)を記載の上、メールで以下までお申し込みください。後日、接続用 URL を送付(8月20日以降、順次)します。

[asiascj20210918\(a\)gmail.com](mailto:asiascj20210918(a)gmail.com) ※ (a) を@にしてお送りください。

《プログラム》

司会：久保亨(日本学術会議連携会員、信州大学特任教授)

栗田禎子(日本学術会議会員、千葉大学教授)

14:00 開会の辞：吉澤誠一郎(日本学術会議連携会員、東京大学教授)

挨拶：川島真(日本学術会議連携会員、東京大学教授)

14:20 趣旨説明

14:30 報告1：朝鮮近代史研究の立場から

愼蒼宇(法政大学教授)

15:00 報告2：戦争責任・アジアにおける戦後補償問題の角度から

内海愛子(恵泉女学園大学名誉教授)

15:30 報告3：世界史的視角——植民地責任と帝国の「記憶」、歴史意識のあり方

井野瀬久美恵(学術会議連携会員、甲南大学教授)

16:00 総合討論

17:00 閉会

主催：日本学術会議 アジア研究・対アジア関係に関する分科会

共催：科研費基盤研究(B) 20H01463 中国の世界秩序観の歴史的変遷と現在